

## あとがき

教師と生徒との信頼関係、そして教師の温かな学級運営があってこそ、道徳科の授業が成り立ちます。共に考え、語り合う、教師にとっても生徒にとっても楽しい授業になることが深い学びにつながります。まず教師自身が楽しいと思える道徳の授業を目指しましょう。

どんなに素晴らしい授業だったとしても、生徒は急に変わることはないかもしれません。しかし、道徳性が少しずつ育まれていく過程を長い目で見守る必要があります。さまざまな授業法や表現方法を開発する余地がたくさんある道徳科は、チャレンジ精神あふれる夢のある教科なのです。



Gakken

\*この冊子は、教科化が始まってから、各地域の中学校の先生方から多く寄せられた疑問や質問を基に構成しています。

## 中学校道徳科Q&A

●発行人 … 甲原洋 ●編集人 … 木村友一  
●発行所 … 株式会社学研教育みらい TEL 03-6431-8416 東京都品川区西五反田 2-11-8

■本書に関するお問い合わせは、右記まで。内容については、TEL 03-6431-1565(編集) それ以外のことは、TEL 03-6431-1151(販売)  
■本書の無断転載、複製、複写(コピー)、翻訳を禁じます。

9300007238

Gakken

授業づくりに役立つ

よく  
わかる!

# 中学校道徳科

Q & A



# はじめに

平成31年4月から、中学校での「特別の教科 道徳」の授業が始まっています。新しく「道徳科」として、教科書を用いて授業を行い、生徒を評価します。道徳教育は本来、よりよい生き方を生徒と教師が共に学んでいく楽しいものであるはずです。このブックレットは、中学校の先生方に行ったアンケートを基に道徳科の授業についての疑問に応えるものです。楽しみながら道徳科の授業に取り組みましょう。

## Q 指導方法はどうする？

### A

## 多様な指導方法を組み合わせて、授業を構成します。

道徳の指導方法は多様にあります。教材研究をし、指導書にとらわれず、生徒の実態を見ながら工夫していきます。生徒が話合いや体験的な学習によって、多面的・多角的な考え方を身に付けていくことが楽しいと思える授業をすることが大切です。



Q

## 授業の準備はどうする？

A

教材を吟味し、生徒に提示する資料を準備し、効果的な授業の進め方を考えておきます。

授業に先立って教師が十分な準備をすることで、違和感なく生徒を教材に引き込み、ねらいに迫る授業を展開することができます。なかには道徳教材として深い内容をもちらんがら、時代背景など生徒には理解が難しい教材があります。準備の実際はどのようなものか、「足袋の季節」で考えてみましょう。

### ●道徳授業の基本の流れ

#### 導入

- 主題に関わる生徒自身の問題意識をもたせる（誘導は避けて引き出す）
- 教材の内容に興味や関心をもたせる
- 学習への雰囲気をつくる

#### 展開

- 教材の「どの部分を」「どのように生かすか」を意識しながら範読する
- 生徒の実態と教材の特質を押された発問をする
- 生徒が考えを深める工夫をする

#### 終末

- 学習を通して考えたことやわかったことを確認する
- 学んだことを心に留め、今後の生き方について考えるようとする

### ●「足袋の季節」の授業準備

#### 提示資料の準備

- 昭和初期の小樽郵便局の写真、場面絵
- 昭和初期の足袋のイラスト
- 昭和初期の時代背景の資料

#### 発問の準備

本時のねらいと内容項目を押されたうえで、発問を準備する。生徒から意見を引き出せないときのために、補助発問を用意しておく。  
【中心発問例】「お婆さんが『私』にくれた心とは何でしょう。」  
【補助発問例】「このお婆さんに出会わなかったら、この子はどんな生き方をしていたでしょう。」  
※発問についてはP3をご参照ください。

#### 生徒の書く活動の準備

- 道徳学習ノート
- ワークシート
- ホワイトボード（話合いのグループごとに準備。黒板に一覧表示をし、クラスで意見を共有する。）

**Q**

# 生徒に深く考えさせるためには、 どんな発問が効果的？

**A**

## 授業展開に合わせて、発問を工夫する。

発問には生徒の心を動かし、問題意識や多様な考え方、感じ方を引き出すねらいがあります。中心発問はねらい・学習課題に直結する、答えが一つではない、考える余地のある、大きな発問を設定しましょう。

### ●導入における発問の工夫

ねらいや教材に関することで、生徒の関心を授業に向けられるようにしましょう。  
現在抱えている悩みや関心ごとを問いかけることも効果的です。例えば、「将来の夢は何か？」など。

### ●展開における発問の工夫

教材を吟味し、中心発問をまず考え、次にそれを生かす前後の基本発問を考えます。発問が契機となり、生徒がじっくり考え、十分に話合い、新しい気付きや学びを得ることを目指して、何を、いつ、どこで、なぜ、どう問うのか、を考えましょう。例えば、中心発問で「本当の○○とは何だろう。」、基本発問で「～のとき△△の気持ちはどんなだろう。」など。

### ●生徒の反応に合わせて、発問を増やしたり減らしたりする

発問をしたら、生徒にじっくり考えさせ、話合いに十分な時間をかけます。そのため発問は極力絞って生徒の思考を促すようになりますが、生徒の考えをより深く引き出すための補助発問など、展開に合わせて増やしてもよいでしょう。例えば、「なるほど、その考えいいですね。新しい視点ですね。」「なるほど、どうしてそう考えたの。」「○○さんの考えと違いますね。△△さんはどう考えますか。」など。

### ●生徒の発言や態度を見て、柔軟に指導する

話合いの方向性と異なる意見が出た場合は、その意見を評価しつつも、授業の流れがねらいからぶれないように、方向性や考える視点を与える助言をしましょう。

**Q**

# 話しはどうする？

**A**

## 生徒たちが相互に多様な考えを学び合い、 深め合えるように工夫する。

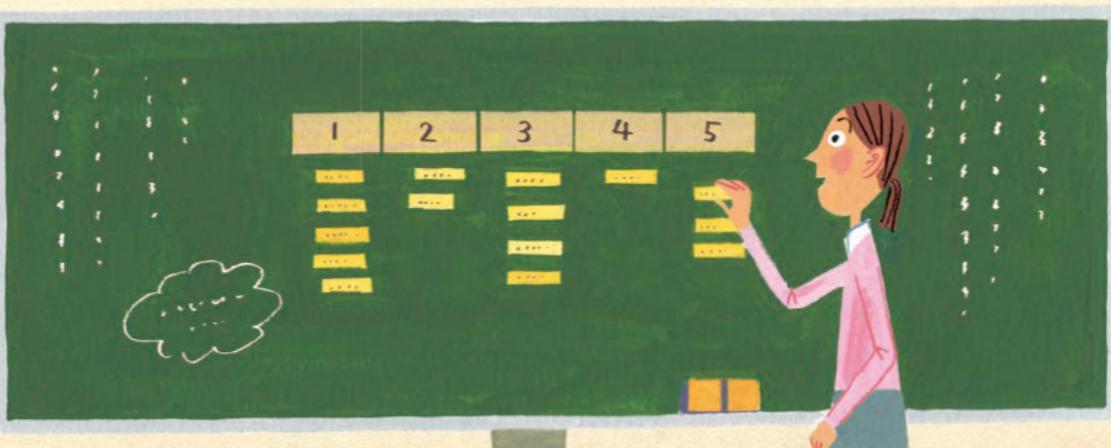
話し合いは、生徒相互の考えを深める学習活動です。考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に行われるよう工夫しましょう。どのような手法で話し合いをしても、生徒の意見を教師が意図的に集約せず、様々な考えを学び合うような授業の流れをつくりましょう。そのために教師が中立的な立場から離れ、発言の流れと反対の立場に立つなど、生徒たちの心にゆさぶりをかける工夫も効果的です。議論という言葉に縛られず、自分の考えを深め、友達と共に語り、よりよい生き方を考えることができる活動を目指しましょう。

### ●ペアでの対話や、小グループでの話し合い

クラス全体での話し合い活動を行う前に、自分の意見を考えさせて少人数での話し合いを取り入れることも効果的です。すべての発言が尊重される雰囲気をつくることが求められます。また、お互いの考え方の違いやよさがわかるようにするための発言指導を行いましょう。例えば、「私はAさんやBさんと違って○○と考えます。理由は△△です。」「私はAさんの考えに加えて、△△だと思います。理由は○○です。」など。

### ●見えない心を可視化する

考えの立場や気持ちを類別したり、心情グラフで生徒の考えを可視化することで、話し合いを活性化させましょう。



**Q**

## 学年・学校全体での授業改善はどう行う？

**A**

ローテーション道徳を行ったり、他教科と関連付けたりして、学年・学校全体で授業改善に取り組みます。

### ●ローテーション道徳とは？

「ローテーション道徳」は、学級担任だけではなく、教師が交代で学年の全学級を回って道徳授業を行う取組のことです。右の表は、道徳の授業を学年4クラスで、同一の曜日、時に設定している例です。

このように、教師が何度も同じ教材で授業を行うことによって指導力の向上につながります。また、教師の専門教科や得意分野などを生かした授業ができるという利点もあります。

学級担任が自分のクラスの授業を参観したり、別の教師による自分のクラスの生徒の評価を聞いたりすることで、生徒の新たな一面を発見することもでき、組織的な評価につながります。

### ●他教科などとの関連付け

道徳科と他教科との関連を図るには、年間指導計画を立てる際に道徳教育の全体計画や別葉などを参考にし、道徳教材の学習時期を調整して、他教科との関連指導の見通しを立てます。職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などについても、指導の時期や内容との関連を考慮して、指導の工夫を多様に図ることが大切です。

### ●ローテーション道徳の担当表の例

	1組	2組	3組	4組
1週目	A	B	C	D
2週目	E	A	B	C
3週目	F	D	A	B
4週目	C	E	F	A
5週目	B	F	D	E
6週目	D	C	E	F

※教師はそれぞれA～Fの教材を担当し続ける

**Q**

## 道徳科の評価はどうする？

**A**

生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて、認め、励ます個人内評価をします。

生徒が学習活動を通じて多面的・多角的な見方を発展させているかどうかや、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうかを見取るために、様々な工夫が必要です。

### 評価に生かす情報を集める

生徒の道徳学習ノートやワークシートへの記述内容から学習状況を見取ることができます。授業中の生徒の発言や会話、つぶやきを記録するために、座席表を準備して授業中に記録することも有効です。記述することが苦手な生徒については、面接や対話によって学習状況を把握しましょう。

### 大きくまとまりでの評価

学期ごとや年間での大きくまとまりで、生徒の道徳性の成長を評価します。生徒が書き溜めた道徳学習ノートやワークシートなどから、生徒一人一人の学習状況や道徳性の成長の様子を見取ります。道徳科の評価は担任が行いますが、その精度を高めるには、多面的な見取りが重要になります。生徒を見守る全校の教師が、学級や学年の境界を越えて生徒の評価を共有し、その精度を確認し合うことが必要です。

### よりよい評価文にするためのポイント

生徒の道徳授業での学習状況や考え方の具体的な成長について、プラスの面を通知表に記述します。「以前はこうだったが」というようなマイナス面や、生徒の人間性や性格には触れないように注意します。また、「挨拶がよくできるようになった」というような生徒の日常生活での変化は、道徳授業によるものとは限らないので、道徳の評価とは区別します。保護者や生徒にもわかりやすい、自然で平易な言葉を用いましょう。